

# さくら 2006 春

発行  
社会福祉法人 東桜会  
第 11 号  
〒420-0962  
静岡県葵区東 527 番地の 1  
特別養護老人ホーム 麻機園  
TEL 054(247)8739  
FAX 054(247)8640

## 新しい職員の紹介

平成 18 年 4 月（今年度も）4 名の方が東桜会の職員の仲間入りをしました。その中でも、今年から社会人として歩み出すニューフェイス 2 人を紹介させていただきます。

麻機園 寮母 豊泉有美子

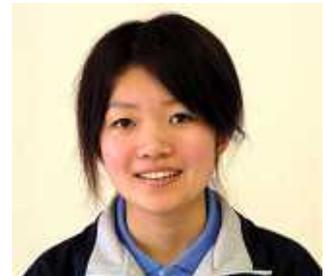
私は福祉専門学校を卒業し、4 月から麻機園でお世話になります。利用者一人ひとりの話を聴き、皆さまの立場になって考えられる介護ができたらと思っています。一日も早く皆さまの顔と名前を覚え、仕事に慣れるよう努力します。そして、自分自身も成長できるよう頑張ります。よろしくお願ひします。



麻機園 寮母 増田 絢

4 月から社会人のひとりとして働くのだな、と研修に参加しながら実感しました。今までの学生生活とは全く違う毎日が待っていると思うと、少し不安もありますが、これからたくさんの方と出会えることがすごく楽しみです。

人生の先輩である利用者の皆さまと職員の先輩方から多くの事を学び、成長していきたいと思います。一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひします。



## 「さくら」の時期になりました。

特別養護老人ホーム麻機園 園長 秋山 通

今年も「さくら」の時期になりました。地球温暖化の影響でしょうか、今年もまた昨年のサクラの時期と様子が異なるように感じます。静岡では3月中旬に開花宣言があり、既に3月末には満開を迎えたところもあったようですし、まだこれからのところもあるようです。どこのサクラも咲く時期に迷っているようです。麻機園のサクラは、例年では近隣が満開を迎える頃に咲きだし、他所が散り出すと満開を迎えるのが常でしたが、今年は3月末には満開となり、サクラ散らしの雨が大変気になったところですが、それでも今年もまた何時ものように園庭が明るくなるほど咲き誇っています。

新しい年度を迎え改正介護保険法が施行されます。今年のサクラの開花状況とは反対に、制度の改正内容の正確な情報がなかなか公表されず、介護の現場では混乱しながら準備を続けています。ご利用者様やご家族様に対する説明もまだこれから行わなくてははいけません。元来制度改正の主旨は、利用する立場の利便を考慮して行われるべきと私は思いますが、この度の介護保険法の改正はどうみても利用者の立場や、事業者の立場は二の次におかれているように思えます。利用者負担の増加の一方、利用制限も増えました。ご利用者様への説明にも窮する事が予想されます。制度改正にあたっては、広く国民の意見を聴き、具体的な情報を早めに提供する事が求められます。

話題を変えて、東桜会の新年度4月1日は麻機園、ケアハウス桜花共に開園記念日にあたり、それぞれ開園18周年、開設9周年を迎えました。またこの日には新たに4人の新入職員を迎え、二人は新たに学校を卒業し初めて社会人となる者、他の二人は新たな職場として東桜会に就職した者達です。施設も職員も新たな気持ちで、それぞれの持ち場をご利用者の皆様に明るい笑顔と共にご援助させていただきます。今年度もまた一年間どうぞよろしくお願ひいたします。

# ポスターセッション



2月9日に静岡市民文化会館で静岡県老人福祉施設協議会が「サービスの質の向上」「情報ネットワークの構築」「職員相互交流」を目的に主催する“ポスターセッション”が行われ、当施設も参加しました。

“ポスターセッション”とは、報告発表の趣旨を図表やキーワードなどを決められた大きさのパネルに掲示し、当該テーマに関心ある参加者の前で説明するものです。

麻機園の演題は“変わらないもの”。内容は、麻機園の誕生した経緯や創設者の想いからはじまり、現在、当施設で取り組んでいる行事や介護方法、利用者に対する職員の想い、そして最後に麻機園の福祉に対する考え方を記載しました。全部で8ページで構成されています。現在は、麻機園1階廊下に掲示してありますので、ぜひご覧ください。

# ありがとうございました。

麻機園開園当初より、歌の先生として毎週来てくださった豊島作太先生。3月30日をもって“歌の会”が最終日となりました。

毎回、歌ってくださった先生の十八番!?とも言える“おさるのかごや”は入所者にとっても職員にとっても心温まり、元気を与えてくれる歌として印象に残っています。最後に入所者より心を込めて作ったカードと麻機園より花束をプレゼントをさせていただきました。

今後は毎月1・15・30日頃おいていただけるということで、又先生の元気な歌声が聞けることを改めて入所者・職員一同お待ちしております。

とよしまありたか



# 消防訓練を行いました。

麻機園では静岡市千代田消防署と第19分団の協力により、毎年2回、夜間の火災を想定した夜間総合消防訓練を実施しています。

目的は、火災発生時における消防署への通報、初期消火、入所者の避難誘導等を実施することにより、夜間における少人数時の連携行動の重要性を認識し、地域の応援者との連携や消防隊への情報伝達の方法を修得することです。

訓練は、「午後11時30分頃に3階中央リネン室から出火。初期消火に失敗」と想定し、消防署への通報から消防隊到着までの15分間、夜勤職員役の5人が入所者の避難誘導を行いました。又、消防隊到着後、入所者役の職員がはしご車で救出される訓練も体験しました。参加者全員が真剣に取り組み、本番さながらの訓練となりました。

訓練後の講評で夜間職員役を行った職員は少し疲れた様子で、感想や反省を発表していました。同署員からは、火災発生時における情報収集や情報伝達の重要性などのアドバイスを受けました。

皆様の力をお借りしながら、今後も“安心して過ごしていただける施設”になるよう努めてまいります。



「当たり前の意味」

麻機園 寮母 下地綾子

私には知的障害者の兄がいる。小学校の頃から施設で暮らしていた為、私は幼い頃から施設に行く機会が多くあった。施設もそこで働く人も私にとってよく見てきた身近なものであり、高校生になって将来を考えた時、福祉施設で働くことになった。今思えば自然なことだった。専門学校を出て、麻機園に就職した。最初は仕事をすることで精一杯、疑問を持ったり、考えたりといった事があまり出来なかった。

ある時、利用者から「ここに居るのが一番いい」と言われ、とても嬉しく感じた。しかし、ふと施設で暮らす兄を思い出した。兄はよく外泊で家に帰ってくる。家に来ると、施設に戻りたくない事を訴える。それは施設に戻る時まで続く。しかし施設に送って行く、嬉しそうに自分の部屋に戻って行く…。そんな兄の姿に、施設の生活にも自分の居場所がある、でもやっぱり家が一番なんだーと思えたものだ。利用者は家で暮らす事は出来ないということが分かっていく。ここに居るのが一番、という言葉は嘘ではないが、もしがすると、比喩基準の中に家は入っていないのかもしれない。

私は子供の頃から家で暮らすという当たり前の事が出来ない人達もいる。という事を知っていた。他人からすれば当たり前だが、兄の存在により、私はこの当たり前に幸せを感じ、時には申し訳ない気持ちを抱いたりもした。だからこそ私は自分出来る精一杯の事をしたい。自分の事も、他人の事も…。そんな風に思っていたことを、最近忘れていたように感じる。

寮母になって8年が経つ。利用者の方々や、自分の兄からたくさん考えるきっかけをもらい、「これでいいの？」と色々な事に目を向けるよう意識している。意識をしていると、次第に当たり前の事になって、更に多くの事に目を向けられるようになる。それは援助者としてだけでなく、ひとり人間としての成長でもあるということに気付いた。最近、少しずつ成長している自分を感じている。元来のんびり屋で面倒くさがり屋の私、後から気付く事も遅くなってしまう事も多々ある。でも自分の今の当たり前を増やし、ひとの思いやちょっとした変化に気付けるよう、そして信頼してもらえ人間になれるよう頑張っている。